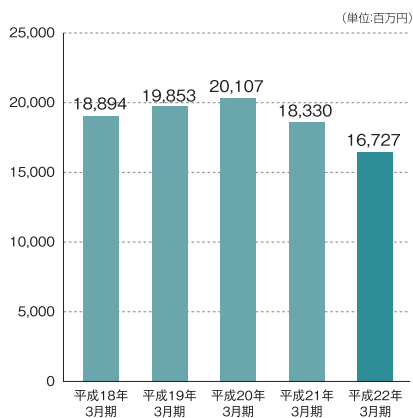


業績のハイライト(個別)

The highlight of achievements

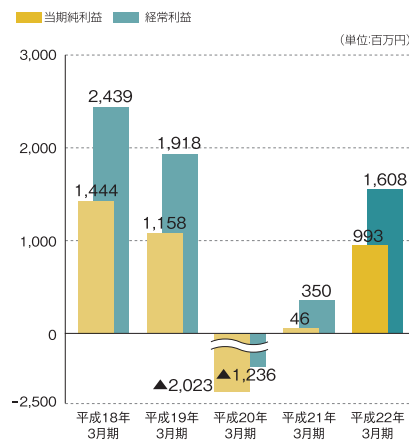
経常収益

経常収益は、貸出金利息や有価証券利息配当金が減少したことなどから、167億27百万円(前年同期比8.7%減)となりました。



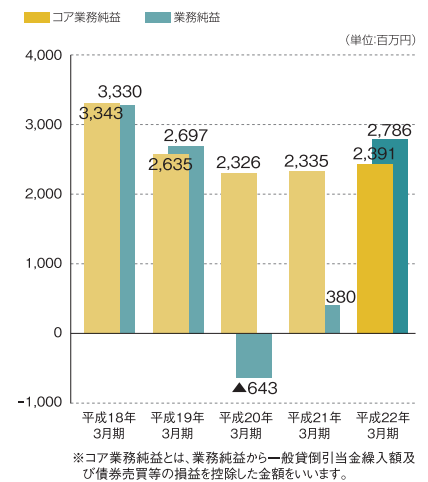
経常利益・当期純利益

経常利益は、貸倒償却引当費用が増加したものの、金融市場が緩やかに回復し、有価証券の減損処理額が大幅に減少したことなどから、16億8百万円(前年同期比358.9%増)、当期純利益は9億93百万円(前年同期比2,032.9%増)となりました。



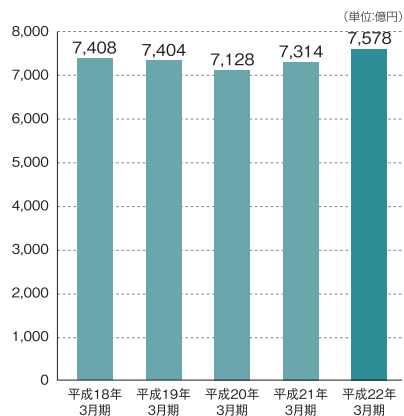
コア業務純益・業務純益

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、資金利益が減少したものの、金融派生商品(金利仕組みローン等)の評価損益が改善したことなどから、23億91百万円(前年同期比2.3%増)となりました。



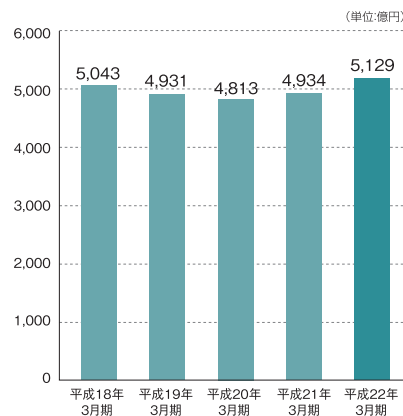
預金・譲渡性預金残高

預金・譲渡性預金残高は、主力の個人預金をはじめ、公金預金などが堅調に推移したことなどから、7,578億20百万円(前年同月比3.6%増)となりました。



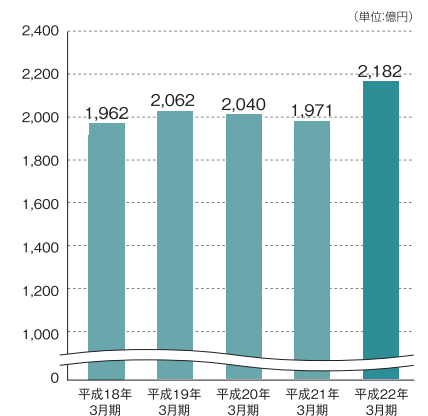
貸出金残高

貸出金残高は、地域経済の低迷により借入れ需要が低下したことなどから、中小企業向け貸出が減少したものの、住宅ローンや地方公共団体向け貸出が堅調に推移したことなどから、5,129億57百万円(前年同月比3.9%増)となりました。



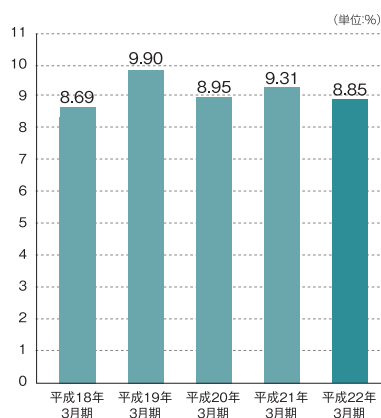
有価証券残高

有価証券残高は、2,182億62百万円(前年同月比10.6%増)となりました。



単体自己資本比率(国内基準)

単体自己資本比率(国内基準)は、前年同月比0.46ポイント低下し、8.85%となりました。



格付

当行では、第三者による評価をととして、財務内容の健全性と経営の透明性を積極的に開示していくことにより、株主やお取引先の皆さまに当行の経営状況をより深くご理解いただくことを目的に、株式会社日本格付研究所(JCR)より格付を取得しております。

格付機関

株式会社日本格付研究所(JCR)

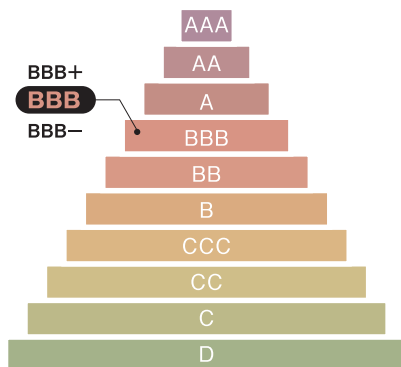
格付種類

長期優先債務格付

格付

BBB(トリプルBフラット)

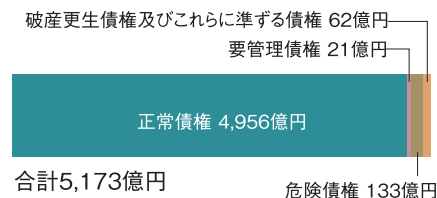
見通し
安定的



金融再生法開示債権

金融再生法に基づいた資産査定の結果、銀行の保有する債権(貸出金・支払承諾見返等)のうち、正常債権以外の債権額は、216億87百万円(前年同月比13億42百万円減)となりました。

金融再生法に基づく開示債権額(平成22年3月末現在)



金融再生法開示債権の保全内訳

(平成22年3月末現在、単位:百万円)

	債権額(A)	保全額(B)		保全率(B/A)	
		担保・保証等	貸倒引当金		
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	6,201	6,201	4,970	1,230	100.00%
危険債権	13,357	12,974	11,697	1,277	97.13%
要管理債権	2,128	1,556	1,235	321	73.15%
正常債権	495,640	263,158	262,230	928	53.09%
合計	517,328	283,890	280,134	3,756	54.87%

破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権。

危険債権

債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権。

要管理債権

3か月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権。

正常債権

債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、上記3つの債権以外のものに区分される債権。

不良債権比率の推移

